

UNOICHI実行委の玉野高生

17日、愛媛県宇和島市でクルーズ船歓迎イベントに参加したUNOICHI実行委員会」の玉野高生7人。宇野港でマルシェ(市場)イベントを開いてきた実行委の活動の幅を広げる参考にしよう、現地の高校生と一緒に乗船客をもてなした。(松山定道)



エコボトルに込めた思いを懸命に説明する玉野高生ら

外国人客おもてなし

玉野高生7人は、市販の缶やペットボトルの飲料と違い、何でも使えるエコボトルを販売。開始当初、海のプラスチックごみを減らそうという趣旨が外国人になかなか伝わらず苦戦したが、宇和島東高生が通訳を買って出て、売り上げの一部が環境保護に活用されることも説明すると「素晴らしいプロジェクト(英国人女性)と売れ始めた。マルシェが定着している宇野港に対し、宇和島港では外国人の名前を漢字の当て字で色紙に書いてプレゼントするサービスが好評だという。宇和島東高生17人は、観光を終えてバスで港に戻ってきた外国人客に「あなたの名前を漢字でどう書くか知っていますか」などと英語で話し掛け、盛んにコミュニケーションを取った。

玉野高1年平田凌斗さん(16)は「どんな企画も『ハロー』の後が続かないと交流にならない。宇和島東高生の積極性を見習いたい」と話した。

交流は日本財団(東京)の「海と日本プロジェクト2018」の助成を受け、初めて実現した。10月20日には宇和島東高生が宇野港を訪れ、歓迎イベントに参加する予定で、海を通じた高校生の連携がさらに深まりそうだ。



外国人に積極的に話し掛ける宇和島東高生

愛媛・宇和島 クルーズ船催し 現地高校生と連携



イベント終了後、一緒に記念撮影。10月に宇野港で再会することを約束した



玉野高生が企画したエコボトル。中に仕切りがあり、果実や茶葉を入れて風味付けもできる